

キャリアサポートレター vol. 3

今回は、秋の特大号です。企業からはサンフレッチェ広島にトップインタビュー。教員からは、留学体験記を多彩な写真とともに紹介。そして、在学生からは、教諭という職業を選択したそれぞれの道についてエピソードを語ってもらいました。秋の夜長にじっくり読んでください。



2024 年10月31日 発行
エリザベト音楽大学
キャリアサポート委員会/キャリア支援室
mail:gakusei01@eum.ac.jp
tel:082-221-0918

教諭への道ーそれは人それぞれの道があるー 4人4様のエピソード



**広島県
中学校（音楽） 合格！**

4年 音楽文化学科 音楽文化専修
井上 和奏

教員採用試験合格にあたり、指導してくださった先生、応援してくれた友人や家族、教育実習を受け入れてくださった学校に感謝の気持ちでいっぱいです。私が、「教員になろう！」と決めたのは2月下旬の春休みです。教育実習事前指導のPA（プロジェクトアドベンチャー）講座で、教育の素晴らしさや楽しさを感じて、本格的に教員採用試験に向けて勉強を始めました。その後、6月に教育実習に行き、私が考える「人の成長を支えられる仕事」は教師しかないと確信しました。

教師になると決めてからは、大学の自習室で朝から晩まで勉強をしました。もう少し早く勉強を始めていれば、もっと知識を自分の中に落とし込めたのではないかと残念に思うこともあります。教師を目指す皆さんには、少しでも早く勉強を始めることをお薦めします。音楽には人生を豊かにする力があります。「音楽の授業を通して、生徒たちに人生の楽しみを見つけてもらえる」。そのような教師になることが私の夢です。



教員採用試験対策で使用した教材



**「幼保連携型認定こども園」に
保育教諭として就職**

4年 音楽文化学科 幼児音楽教育専修
山本 愛梨

私は幼児音楽教育専修で、幼稚園教諭免許状と保育士資格の両方の免許・資格を取得し、「幼保連携型認定こども園」に保育教諭として就職します。

1年生の時から、保育士試験対策講座に参加をして、資格の説明、試験の申請から受験までサポートしていただき、2年生の後期には、筆記、実技ともに合格をしました。3年生になってからは、玉川大学の通信教育課程を併修して小学校二種免許状の取得も目指しています。

大学生は学べる時間がしっかりとれる時だと思い、一つでも多くの資格を取りたいと考えています。教職の勉強をしながら、卒業後は、一般企業に勤めたいと思う時期もありました。

試行錯誤しながら、子どもの成長を丁寧に見守ることが出来る保育教諭の道を選びました。自然で落ち着いた環境の園に採用していただき、就職してからは、私も子どもと一緒に成長をしていきたいです。



**広島県 特別支援学校
（高等部音楽） 合格！**

4年 音楽文化学科 幼児音楽教育専修
麻生 温可

幼児音楽教育専修に在学しながら中学・高校の教職科目を履修。さらに4年次に大学院の授業を履修する5年プログラムを選択。2年次には保育士の資格も取りました。高校教員になりたいと思ったのは、高校での教育実習が本当に充実していたからです。教員採用試験の勉強を始めたのは、高校での教育実習が終わってから。本当に時間が足りなくて、教員採用試験では、第一希望の高校（音楽）は残念ながら不合格。第三希望の特別支援学校（高等部音楽）で二次に進みました。二次試験対策も時間のない中、オンラインで歌のご指導、直前に面接練習をしていただきました。高校の同級生も同じ状況で頑張っていたのが心の支えとなり、二次試験に合格。5年プログラムなので、後一年大学院での研究が残っているため、教員採用は延長申請をして、大学院を修了した後に教師として働きます。大学時代には、学べることは何でも学んでおく選択肢が増えて、自分に合ったことを見つけやすくなります。皆さんも一つでも多くのことに挑戦して、充実した大学生活を過ごしてください。



**音楽の学びを活かせる園で
子どもたちと楽しみながら成長**

4年 音楽文化学科 幼児音楽教育専修
濱本 想来

4歳からピアノとソルフェージュを学んでいました。将来は音楽を活かす仕事に就きたいと思っていたので、エリザベト音楽大学の幼児音楽教育専修で音楽理論等も学びながら幼稚園教諭資格取得を目指すことができたことは本当に良かったです。教育実習に行ってみて、子供が好きなのは、幼稚園教諭になれないことも実感しましたが、10日の実習期間の間にも子供が成長していく姿を見て、幼稚園教諭になりたいという思いがさらに強くなりました。就職が決まった幼稚園は、絵本、おはなし、わらべ歌など大学で学んだ音楽の知識が活かせる環境にあります。子供たちと楽しみながら働き、実務経験を積んで、保育士の資格を取得するのが次の目標です。

企業トップからワンポイントメッセージ



株式会社サンフレッチェ広島
代表取締役社長

仙田 信吾

サンフレッチェ広島に仕事として関わりたい希望者は多く、私たちの喜びでもあります。サッカーが好きだというだけの人材には魅力を感じません。何をもってクラブに貢献できるのか、そこをしっかりと押さえて頂きたいのです。

私はサッカー経験がないのですが、経営の苦難を従来の読書や人間関係に救われた経験を持ちます。

RCC常務を退任してから誘いを受け就任したのが、2020年1月。初めてプロ選手たちと触れ合い、厳しい練習に打ち込む選手に魅了されていきました。しかし、すぐにコロナ禍に見舞われます。多くのチームがすくんで、自分に何が出来るか呻吟しました。その中で絞り出したのが、被爆からの復興に際し、サッカーが若者に生きる勇気を与え希望になったという歴史の発信でした。被爆のわずか2年後、広島高師附属中が全国優勝したのがその象徴です。広島には「地の力」があり、共にコロナ禍克服をと訴えました。その反響は大きく、経営面でも私たちに大きな支えが生まれていきました。

私の場合の得手は歴史でした。読書量と素晴らしい人との出会いが培ってくれました。歴史を伝えるスタジアム内のミュージアムにもぜひお越しください。



ドイツ留学体験記



エリザベト音楽大学
鍵盤楽器専攻 専任講師

小蔦 寛二

私は2010年から2015年までの約5年間、ドイツのハノーファーとベルリンに留学しました。高校時代から漠然と将来のドイツ留学をイメージしていましたが、大学2年生の時、ドイツとオーストリアを一人で訪れた経験から語学的重要性を感じて、本格的に勉強を始めました。そして翌年の春休みには、留学にも使えるドイツ語資格（ゲーテ・インスティテュートのZD）を取得しました。早くから語学の勉強に取り組んだことが、その後の留学に大いに役立ちました。留学の直接のきっかけは、大学院1年目に受講したザルツブルクの夏季国際音楽セミナーでした。そこで指導を受けたドイツの音楽大学の教授とコンタクトを取り、翌年の入試を経て留学が決まりました。

ドイツでの生活は、私にとっては日本よりも時間がゆったりと感じられ、ピアノの勉強に集中できました。私の通ったハノーファー音楽大学やベルリン芸術大学には、世界中から熱心な学生が集まっており、周りの仲間から多くの刺激を受けました。また、世界的な演奏家の公演を学生料金で数多く聴くことができたのも、貴重な経験でした。

留学時代は私にとって、人生で最も練習に励んだ時期であり、演奏する曲のレパートリーを大幅に増やすことができました。ヨーロッパ内の国際コンクールにもたくさん挑戦し、その中のいくつかで入賞できたことは、経歴にもプラスになりました。海外生活では困難もありましたが、留学していなければ今の私はないと言えるほど、大きな財産となりました。

これから留学を目指す皆さんには、まず語学の勉強を始め、留学先の情報を集め、可能であれば実際に現地を訪れてみることをお勧めします。慣れ親しんだ日本を飛び出して海外で生活するには勇気が要りますし、費用もかかりますが、その分得られるものは非常に多いです。そうした経験は、必ず今後の人生に役立ちます。ぜひ、勇気を持って一歩を踏み出してみてください！



ポーランド・バルチック国際コンクール



ハノーファー音楽大学の教授と仲間



ハノーファー音楽大学裏の森



ベルリンフィルハーモニー